



○稲刈り後の管理特集 ～すき込み編～

①稲わらすき込みの効果

稲わらを圃場にすき込むと、稲の生育に必要なケイ酸や有機物が還元されます。稲わらをすき込むことで翌年の稲の生育不良の影響を小さくすることができます。



<石灰窒素について>

稲わらが分解されずに翌春まで土壤中に残る場合は、「石灰窒素」をすき込みする際に散布すると分解促進され、効率よくケイ酸を還元することが出来ます！ 散布を行うのは年内にしてください。

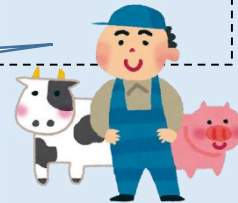
②「ひこばえ」は残さない



稲刈り後に稲株をそのままにしておくと「ひこばえ」が生えてきます（特に「ひとめぼれ」等の極早生品種）。「ひこばえ」はイノシシやシカの餌になってしまうので早めにすき込みましょう。

③稲わらを持ち出している場合…

近年は国内産粗飼料の需要が高まり、WCSや稲わらを販売している生産者さんも増えていますが、ケイ酸や有機物が還元されないと生育不良による収量や品質への影響が出てきます。



稲わらを還元できない場合は、堆肥や土壌改良資材を散布して地力維持を図りましょう！

☆来月は「管理特集～堆肥編～」を予定してます。そちらも併せて読んでいただき、冬場の作業に備えましょう！

